



2026年5月21日

各位

株式会社 C K サン エツ
代表取締役社長 釣谷 宏行
(コード番号 5757 東証プライム)
問合せ先 取締役管理統括部長 松井 大輔
TEL (0766) 28-0025

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応のアップデートについて

当社は、2025年5月20日に公表いたしました「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について、現状の評価・分析や取り組みの進捗状況等を踏まえ、内容をアップデートしましたのでお知らせいたします。

記

1. 現状評価（連結ベース）

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期
売上高 (百万円)	115,343	123,838	111,433	125,108	149,438
営業利益 (百万円)	10,771	8,279	7,929	10,263	14,161
経常利益 (百万円)	6,571	8,655	6,094	8,383	5,636
当期純利益※ (百万円)	4,313	5,318	3,815	5,207	3,587
1株当たり純資産額 (円)	4,649.01	5,240.76	5,663.62	6,137.67	6,651.37
1株当たり当期純利益金額 (円)	517.19	644.39	458.22	616.11	432.19
自己資本比率 (%)	54.2	57.5	61.5	60.1	56.3
ROE (%)	11.7	13.0	8.4	10.4	6.7
PER (倍)	7.39	6.75	8.67	6.18	9.61
株価 (3月末) (円)	3,820	4,350	3,975	3,810	4,155
PBR (倍)	0.82	0.83	0.70	0.62	0.62

※親会社株主に帰属する当期純利益

当社の2026年3月期におけるROEは6.7%、PBRは2026年3月末時点で0.62倍となっております。

2025年4月1日付で三谷伸銅株式会社を子会社化したことに伴う伸銅事業における販売量の増加（前年同期比+11.7%）や、銅相場の高値推移により増収、また原料相場差益の発生により営業利益は増益となりました。一方で、銅相場の変動リスクをヘッジするためのデリバティブ取引に係る損失を計上したことにより、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益は減益となり、結果としてROEは低下いたしました。

当社のPBRが1倍を下回る水準で推移している要因としては、当社グループの主力事業領域である伸銅事業、精密部品事業及び配管・鍍金事業は、国内市場の需要が低迷しており、市場の成長

性に不透明感があることや、過去における内部留保の蓄積が不十分であったことなどから、株主還元に対する期待に十分に応じられなかった点が挙げられると認識しております。

2. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた方針

当社は、資本効率の改善と市場評価の向上を重要経営課題と位置付け、以下の施策を推進してまいります。

(1) 収益力の強化 (ROE 向上)

- ・ 三谷伸銅株式会社との統合効果の早期実現
- ・ 生産技術およびノウハウの共有を通じた高付加価値製品の拡充
- ・ 原材料・副資材をグループで共同購入することによる調達コストの低減

(2) 成長投資と株主還元の両立

- ・ M&A を中心とした成長投資の継続的実行
- ・ 内部留保の確保と資本効率を意識した資金活用
- ・ 累進配当方針の導入による安定的な株主還元

(3) IR 活動の強化

- ・ 英文開示の拡充による海外投資家への情報発信
- ・ 機関投資家との建設的な対話の促進

3. 中長期的な目標

当社は、上記施策の着実な実行により収益力および資本効率の向上を図り、PBR1 倍以上への改善を目指してまいります。

以上